

須崎市

横浪林海研が開所

【須崎】須崎市浦ノ内の旧県立横浪こどもの森



京大や高知大関係者、養老さん＝左端＝らがセンターの開所を祝った（須崎市浦ノ内）

養老孟司さんから記念対談

の施設を改修して海洋、農林分野の研究拠点として活用する「横浪林海研 研究交流センター」の開所式が二十七日、現地で開かれた。ベストセラー「バカの壁」で知られる解剖学者の養老孟司さん

らによる記念対談もあり、関係者ら約四十人が耳を傾けた。財政難から平成十六年八月末に閉園した横浪こどもの森を活用しようと、アウトドアライターの天野礼子さんが京都大

などに活用策を提案。県が施設を京大と高知大に開放して共同研究の活動拠点として利用することになり、今年二月に協定を結んでいた。この日は、養老さんと長岡京市の電子部品メーカー大手「村田製作所」社長で、チヨウの研究家としても知られる村田泰隆さんがフリートーク形式で対談した。養老さんは、ごみ掃除を引き合いに「世界の秩序」を説明。見た目がきれいになるだけで「世界の秩序は増さない（よりの秩序の程度がよくなるわ

）が移動しただけ」と独特の語り口。村田さんも自然環境について「人間は蚊やハチは嫌だが、チヨウやトンボはいいと考える。しかし、自然は勝手に選択できないものであり、全体を残すのが重要」と環境問題などについて語った。対談後、関係者が看板を除幕した。五月から高知大が近くの海に水温や pH を測定する機器を設置するなど調査をスタートさせる予定。

（奥村盛人）